三井倉庫グループの価値観

PURPOSE ｜ 存在意義

社会を止めない。進化をつなぐ。

物流は、人と人、産業と産業、国と国など、あらゆるものをつなぐ太いパイプであり、社会を根底から支えるインフラとしての重要な役割を担っています。

私たちは、創業から100年以上、時代のニーズに応じて業容を拡大し、社会の進化をつなげてまいりました。世界をより良い方向へ動かし、心豊かで持続可能な社会を実現するために、今日も私たちは活動しています。

VISION ｜ 中長期的に目指す姿

いつもも、いざも、これからも。
共創する物流ソリューションパートナー

社会課題が複雑化し、社会そのものが大きく変化する中で、物流の重要性はますます高まり、単に「モノを預かる・運ぶ」だけでなく、さまざまな課題解決に結びつく効率的かつレジリエントなサプライチェーンの構築が求められています。

私たちはいかなる時も、グループ内はもとよりあらゆるステークホルダーと共創することで、お客様の企業価値向上を実現する物流ソリューションパートナーであり続けることを目指しています。

4 VALUES ｜ 価値観・行動指針

PRIDE
社会を止めないことの
責任と誇り

CHALLENGE
顧客視点と社会視点の、
提案力と実行力で挑む

RESPECT
多様な個を受け入れ、
新たな価値を生み出す

GEMBA
現場は原点であり、
進化の起点であり続ける

従業員一人ひとりが4つのVALUEを実践して能力を最大限に発揮し、強みをさらに磨きあげることで、持続的な価値を創出する企業グループの実現を目指してまいります。

01 イントロダクション
▶ 三井倉庫グループの価値観
「VALUE REPORT 2026」について
CONTENTS
三井倉庫グループの成長の軌跡
At a Glance
02 マネジメントメッセージ
03 パーパス経営による価値創造ストーリー
04 ビジョン実現に向けた戦略
05 価値創造を実現するマテリアリティ
06 事業戦略
07 データセクション

「VALUE REPORT 2026」について

「VALUE REPORT 2026」発行にあたって

地政学リスクの高まりや気候変動をはじめ、社会を取り巻く環境が深刻かつ複雑化する中、企業が持続的な成長を果たすためには、事業を通じた社会課題の解決がこれまで以上に強く求められていると認識しております。

三井倉庫グループはパーパス「社会を止めない。進化をつなぐ。」を掲げ、事業を通じた社会課題解決と持続的な企業価値向上の両立に取り組んでまいりました。今回の「VALUE REPORT 2026」では、当社グループの持続的成長に向けた目指す姿をお伝えするべく、今年度で最終年度を迎える「中期経営計画2022」の取り組みを掲載するとともに、次期中期経営計画での成長に向けた課題や将来への挑戦についてご説明しております。あわせて、CEOやCFOによるメッセージ、社外取締役や各事業を牽引する中核メンバーたちによる座談会などを通じ、中長期的な企業価値向上に向けた思いや議論を掲載することで、当社グループの目指す姿と成長ストーリーを多角的な視点から紹介しております。

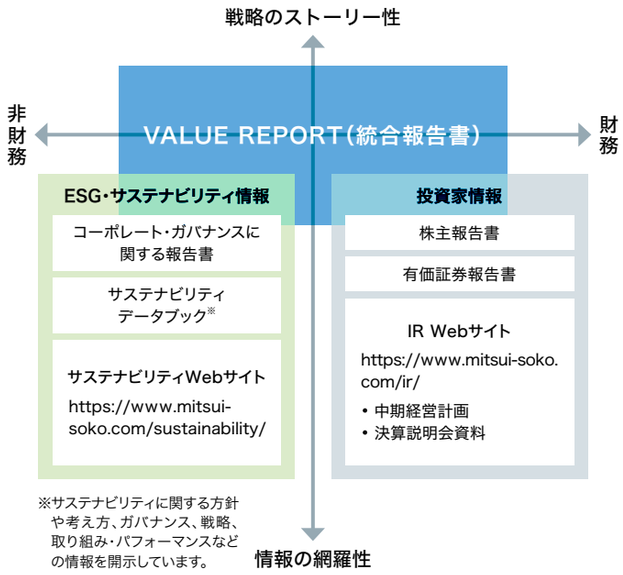
本レポートは、当社の各部門が協力して誠実に作成したものであり、その作成プロセスおよび内容が正当かつ正確であることをここに表明いたします。本レポートが、ステークホルダーの皆様との対話を深めるツールとなり、当社グループをご理解いただく一助となれば幸いです。今後も情報開示の充実と透明性の向上に努めてまいりますので、皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。

2026年9月

古賀 博文

三井倉庫ホールディングス株式会社
代表取締役社長　社長執行役員／グループCEO
取締役会議長

開示媒体のすみ分け



「VALUE REPORT 2026」メッセージ・座談会の見どころ

1 CEOメッセージ：「真のトップ」を目指す次なる飛躍

着実な収益力の向上によって築いた経営基盤をもとに、物流業界の「真のトップ」へ。サプライチェーンをデザインし、社会の進化を支える今後の展望についてグループCEOが語ります。

P.07-12

2 CFOメッセージ：成長へのギアチェンジを支える財務戦略

安定的な財務基盤と「稼ぐ力」を土台に、さらなる成長へのギアチェンジを図ります。企業価値向上に向けた資本政策と財務戦略の全体像をCFOが解説します。

P.13-17

3 三井倉庫カレッジ座談会：「ONE三井倉庫」で高めるグループ総合力

各事業を牽引する中核メンバーが集結し、「ONE三井倉庫」の未来を議論。グループ総合力の向上と新たな価値創出に向けた、挑戦への思いを語り合います。

P.33-37

4 社外取締役座談会：中長期的な企業価値向上に向けた期待

次期中期経営計画に向けたグループ最適化をはじめとした、さらなる飛躍への課題を議論。中長期的な企業価値向上に向けた、社外取締役からの提言や期待をお伝えします。

P.59-67

01 イントロダクション
三井倉庫グループの価値観
「VALUE REPORT 2026」について
CONTENTS
三井倉庫グループの成長の軌跡
At a Glance
02 マネジメントメッセージ
03 パーパス経営による価値創造ストーリー
04 ビジョン実現に向けた戦略
05 価値創造を実現するマテリアリティ
06 事業戦略
07 データセクション

CONTENTS

01 イントロダクション 01

三井倉庫グループの価値観 01
「VALUE REPORT 2026」について 02
CONTENTS 03
三井倉庫グループの成長の軌跡 04
At a Glance 06

02 マネジメントメッセージ 07

グループCEOメッセージ 07
CFOメッセージ 13

03 パーパス経営による価値創造ストーリー 18

持続的成長に向けたアプローチ 18
価値創造プロセス 19
経営資本 20
三井倉庫グループの強み 22
ビジネスモデル・マテリアリティ特定プロセス 23
ビジネスモデル 24
マテリアリティ 25

04 ビジョン実現に向けた戦略 26

中期経営計画2022 26
SPECIAL FEATURE 1
三井倉庫カレッジ座談会 33
SPECIAL FEATURE 2
不動産×物流の融合が切り拓く次なる成長ステージ 38

05 価値創造を実現するマテリアリティ 39

マテリアリティ一覧 39
企業価値・社会価値の創造 41
持続可能で強靭な物流インフラの提供 41
社会課題解決につながる共創を通じた
サービス・事業の創出 42
価値創造の基盤維持・強化 43
成長基盤 43
人的資本経営の推進 43
DXの推進 47
安全・高品質な物流事業の追求 51
社会基盤 53
気候変動対応・資源循環の推進 53
人権の尊重 58
事業基盤 59
〈社外取締役座談会〉 59
ガバナンスの高度化 68

06 事業戦略 81

事業概況 81
倉庫・港湾運送（三井倉庫） 83
航空貨物フォワーディング（三井倉庫エクスプレス） 86
3PL・LLP（三井倉庫ロジスティクス・
三井倉庫サプライチェーンソリューション） 87
陸上貨物運送（三井倉庫トランスポート） 89
不動産事業（三井倉庫ホールディングス） 90

07 データセクション 91

グローバル・ネットワーク 91
グループ・ネットワーク 92
財務・非財務データハイライト 93
11年間の連結財務データ 95
5年間の非財務データ 96
会社情報・株式情報 97

▶ 編集方針

「VALUE REPORT 2026」は、IFRS財団が提唱する「統合報告フレームワーク」や経済産業省の「価値協創ガイダンス」などを参考に、当社グループの経営戦略や業績等の財務情報と、成長の基盤となるESG等の非財務情報を統合的に開示し、株主・投資家をはじめとした幅広いステークホルダーの皆様に向けて、当社グループの中長期的な価値創造ストーリーを発信することを目的としています。

▶ 報告の範囲

対象期間：2025年4月～2026年3月
（一部2026年4月以降の情報を含む）

対象範囲：三井倉庫ホールディングス株式会社を中心としたグループ会社の活動（活動分野ごとに主要な対象会社が異なる場合は、対象範囲を記載）

用語：
MSH：三井倉庫ホールディングス株式会社
MSC：三井倉庫株式会社
MSE：三井倉庫エクスプレス株式会社
MSL：三井倉庫ロジスティクス株式会社
MSCS：三井倉庫サプライチェーン
ソリューション株式会社
MST：三井倉庫トランスポート株式会社
物流事業会社：MSC、MSE、MSL、MSCS、
MSTの5社

▶ 将来の見通しに関する免責事項

本レポートに記載されている当社の将来の業績に関する計画・戦略・見通し・経営に関する取り組みなどのうち、歴史的事実でないものは将来予測であり、これらは現在入手可能な情報に基づいた仮定および判断です。実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、需要や商品の価格、新しい商品の開発・販売や原材料価格・為替レートの変動などにより、これらと異なる結果となる場合があります。

三井倉庫グループの成長の軌跡

物流の歴史

1909年～1959年	1960年～1990年	1991年～2015年	2016年以降～
倉庫需要の拡大	国際複合輸送・航空貨物輸送の発展	3PL企業の台頭	サステナビリティ時代における物流の重要性の高まり

三井倉庫グループの歴史

1909
- 三井銀行から倉庫部が分離、東神倉庫設立
- 倉庫業開業

1942
- 東神倉庫が三井倉庫に社名変更

1950
- 東京証券取引所に株式上場

1968
- 海上コンテナの取り扱いと国内コンテナターミナル運営開始

1977
- 国際運送業務を本格展開

1989
- 不動産賃貸業務を本格展開

2006
- ヘルスケア事業・BPO事業を本格展開

2008
- 3PL事業を本格展開

2015
- 再生医療用iPS細胞の輸送サービスを実施

2021
- SustainaLink（サステナリンク）サービスの開始

強化した物流機能：保管 → 荷役 → 港湾運送 → 3PL → 航空輸送 → LLP → 陸上輸送 → フルスペックの物流機能を最適に組み合わせて提供

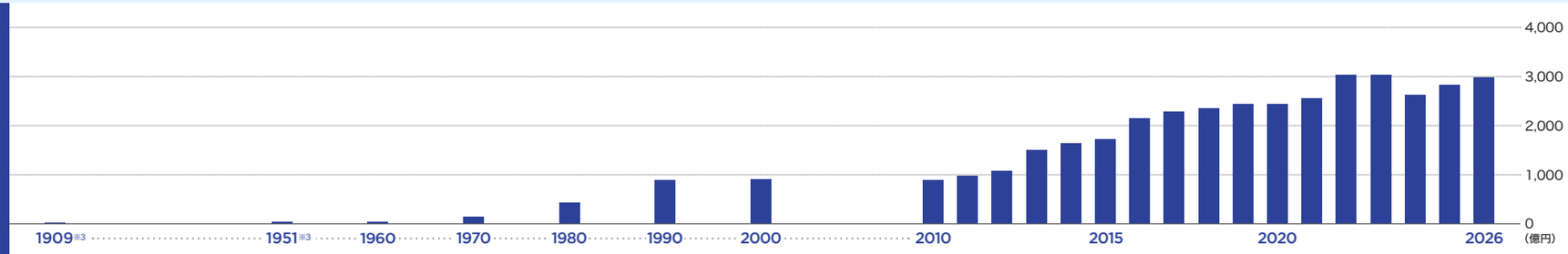
強化した物流領域：調達物流 → 販売物流 → 生産物流 → バリューチェーンの川上から川下までサービスを提供

- 1909 東神倉庫
- 1942 三井倉庫
- 2014 三井倉庫ホールディングス株式会社
- 2014 三井倉庫株式会社
- 1966 東京エアーサービス（2004年にTASエクスプレスに改称） → 2012
- 1969 交通公社航空貨物部（2001年にJTBカーゴに改称） → 2011※1
- 2012 三井倉庫エクスプレス株式会社
- 1971 三洋電機商品センター（1999年に三洋電機ロジスティクスに改称） → 2012 三井倉庫ロジスティクス株式会社
- 1962 ソニー倉庫（2003年にソニーサプライチェーンソリューションに改称） → 2015 三井倉庫サプライチェーンソリューション株式会社
- 1967 丸協運輸
- 2015 三井倉庫トランスポート株式会社※2

※1　2011年JTBカーゴが三井倉庫エアカーゴに改称

※2　三井倉庫トランスポートは丸協運輸グループの統括・管理会社

連結営業収益推移



※3 1909（第1期決算：1909/10～1909/12）、1951（第78・79期決算：1950/4～1951/3）は総益金として計上

01 イントロダクション
三井倉庫グループの価値観
「VALUE REPORT 2026」について
CONTENTS
▶ 三井倉庫グループの成長の軌跡
At a Glance
02 マネジメントメッセージ
03 パーパス経営による価値創造ストーリー
04 ビジョン実現に向けた戦略
05 価値創造を実現するマテリアリティ
06 事業戦略
07 データセクション

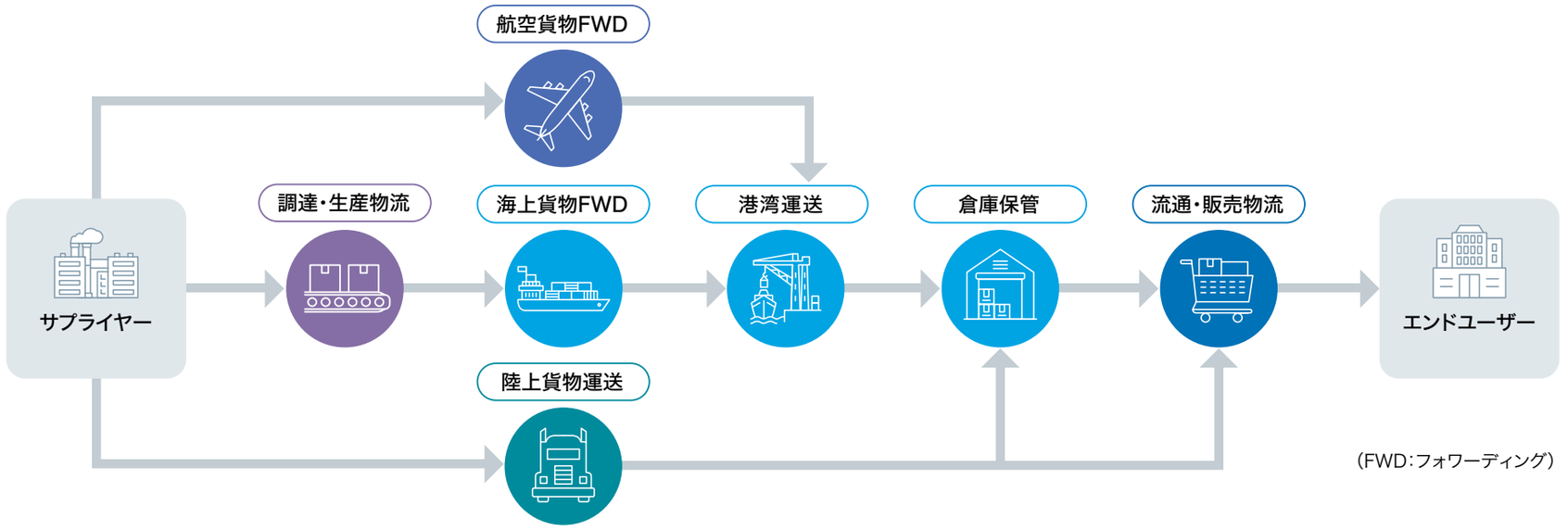
蓄積された知見とフルスペックの物流機能が実現する統合ソリューションサービス

三井倉庫グループは1909年の創業以来、時代の変化とともに物流機能と領域を拡大させ総合物流企業へと発展してきました。
蓄積された知見に基づく高度なサプライチェーン設計とフルスペックの物流機能による高品質な物流オペレーションを掛け合わせ、
最適なサプライチェーンの構築を通じてお客様の事業を支える一気通貫の統合ソリューションサービスを提供します。

サプライチェーン設計　お客様の経営課題を解決する高度なサプライチェーン設計

最適なサプライチェーンを構築するための設計・オペレーション双方向の連携

物流オペレーション　あらゆるニーズに応えるフルスペックのオペレーション機能



01 イントロダクション
三井倉庫グループの価値観
「VALUE REPORT 2026」について
CONTENTS
▶ 三井倉庫グループの成長の軌跡
At a Glance
02 マネジメントメッセージ
03 パーパス経営による価値創造ストーリー
04 ビジョン実現に向けた戦略
05 価値創造を実現するマテリアリティ
06 事業戦略
07 データセクション

At a Glance

三井倉庫グループについて

物流事業

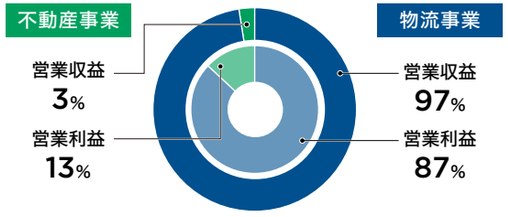
- 陸・海・空の輸送機能と国内外の多数の保管拠点を活用
- 幅広い業界へ最適な物流サプライチェーンを提供

不動産事業

- CRE戦略の実行による保有不動産の有効活用
- 物流施設から転換したオフィスビルや賃貸マンションの運営

営業収益
2,995億円

営業利益
221億円



※構成比は全社費用・内部取引等を除いた額で算出

創業
1909年

従業員数
7,654名

国内	海外
4,955名	2,699名

拠点数
423カ所

国内	海外
288カ所	135カ所

所管面積
2,377千m²

国内	海外
1,738千m²	639千m²

PBR
2.16倍

ROE
8.6%

格付

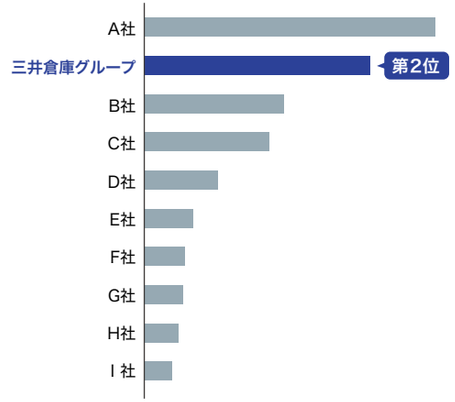
A	A+
（安定的）	（安定的）
格付投資情報センター（R&I）	日本格付研究所（JCR）

海外売上高比率
25.1%

※数値は2026年3月末時点
※PBRは「2026年3月末時点の株価÷2026年3月末時点の1株当たり純資産」で計算

三井倉庫グループのプレゼンス

国内倉庫・運輸関連事業者※の物流事業における営業利益ランキング



※TOPIX業種別株価指数（倉庫・運輸関連業）の構成銘柄10社（出所）各社公表数値より当社作成

トータル・シェアホルダー・リターン（TSR）（%）

	過去3年	過去5年	過去10年
三井倉庫ホールディングス	225.46	552.18	914.80
TOPIX	87.37	102.20	228.21
倉庫・運輸関連業	140.27	218.75	321.21

※TSRは配当を再投資した場合の投資収益率。2026年3月末の終値（3,994円）を終点に、遡って保有していた場合の収益率を掲載
※倉庫・運輸関連業は、TOPIX業種別株価指数の倉庫・運輸関連業（配当込み）となります。

01 イントロダクション
三井倉庫グループの価値観
「VALUE REPORT 2026」について
CONTENTS
三井倉庫グループの成長の軌跡
At a Glance
02 マネジメントメッセージ
03 パーパス経営による価値創造ストーリー
04 ビジョン実現に向けた戦略
05 価値創造を実現するマテリアリティ
06 事業戦略
07 データセクション